

呼吸器感染症に対する Cefadroxil (BL-S 578) の使用経験

伊藤和彦・森瀬雅典・吉井才司・高納 修
名古屋大学医学部第一内科

Cefadroxil を呼吸器感染症 8 例に投与し、次の結果を得た。

- 1. 臨床的には、急性気管支炎 3 例、気管支拡張症の感染 2 例、慢性気管支炎の急性増悪 2 例、気管支肺炎 1 例の計 8 例に対し、著効 2 例、有効 4 例、やや有効 2 例の良好な成績を得た。
- 2. 細菌学的には、起炎菌と考えられる *Str. pneumoniae*, *K. pneumoniae* には有用であったが、*H. influenzae* には有用性は認められなかった。
- 3. 副作用は、全例に認められず、また、臨床検査への異常な影響も認められなかった。

新しく開発され、広域のスペクトルを有する経口用 Cephalosporin 系抗生剤で、Cephalexin と同程度の効用が期待できる¹⁾という Cefadroxil (BL-S 578) を使用する機会を得たので、当内科を受診した呼吸器感染症を対象に投与し、その臨床効果について検討したので報告する。

I. 試験方法

当内科を受診した呼吸器感染症を対象に Cefadroxil を投与し、その臨床症状の経過を観察した。また、その投与前後に、胸部 X 線検査、喀痰検査、血沈や血液一般検査、血液生化学検査などを行なうこととした。

臨床効果判定は、①胸部 X 線写真の陰影変化、②血沈値・CRP・白血球数・喀痰中の分離菌の消長などの臨床検査所見、③発熱・胸部ラ音・喀痰の膿性度や量・咳嗽

やその他の自・他覚的な所見などを参考にして行ない、最終判定は主治医の判定によったが、これとは別に、集計の時に 7 日目にも効果判定を行なった。

II. 試験成績

- (1) 期間は昭和 53 年 8 月下旬より、約 2 ヶ月間であった。
- (2) 対象は 8 例で、年齢は 23 才より 72 才まで、平均 46 才、性別は男性 2 例、女性 6 例であった。また、全例とも外来であった。
- (3) 対象疾患は、急性気管支炎 3 例、気管支拡張症の感染 2 例、慢性気管支炎の急性増悪 2 例、気管支肺炎 1 例であった。
- (4) 重症度は、軽症 4 例、中等症 4 例であった。
- (5) 1 日投与量は、750 mg から 2,000 mg まで、投

Table 1 Summary of cases

No.	Name	Sex	Age	Severity	Diagnosis	Dose			Complication (Underlying disease)
						Daily	Duration	Total	
1	T.N.	F	23	moderate	Acute bronchitis	1.0(g)	9(d.)	9.0(g)	None
2	T.K.	M	52	moderate	Acute bronchitis	1.5	14	21.0	Pulmonary emphysema
3	M.M.	F	35	light	Acute bronchitis	1.5	7	10.5	Bronchial asthma
4	Y.Y.	F	35	light	Infection in bronchiectasis	0.75	7	5.25	None
5	F.K.	F	61	moderate	Infection in bronchiectasis	1.0	14	14.0	None
6	K.T.	F	64	light	Acute exacerbation in chr. bronchitis	1.5	35	52.5	Old pulmonary tuberculosis
7	O.K.	M	72	light	Acute exacerbation in chr. bronchitis	1.0	7	7.0	Old pleurisy hypertension
8	T.K.	F	26	moderate	Bronchial pneumonia	2.0 1.0	6 4	16.0	None

与日数は、35日間の1例を除いて、7～14日間であった。また、総投与量は10g以下が3例、10～20gが3例、20g以上が2例であった。

(6) 合併症としては、肺気腫、気管支喘息、高血圧があり、基礎疾患として、陳旧性肺結核、陳旧性肋膜炎があった。

以上は Table 1 にまとめた。

(7) 起炎菌と考えられる分離菌は、*Haemophilus influenzae*, *Streptococcus pneumoniae*, *Klebsiella pneumoniae* などであった。

対象症例8例の喀痰よりの分離菌及び起炎菌と思われる菌の薬剤感受性の結果などを、Table 2 にまとめた。

症例 No. 2 では治療前に *Haemophilus influenzae* が(卅)に分離されており、薬剤感受性で CEX に(卅), ABPC (卅), TC (卅) であったが、治療5日目にも、*H. influenzae* が(卅)に分離されており、感受性は、CEX (卅), ABPC (卅), TC (卅) となっていた。

治療終了後 *H. influenzae* は分離されていなかった。

この症例は、合併症として肺気腫があるが、自覚症状や他覚所見は著明に改善しており、さらに治療終了後には *H. influenzae* も消失しており、著効とした症例である。しかし、*H. influenzae* は、治療5日目の喀痰より多数分離されており、この薬剤が有効であるかは問題である。

症例 No. 4 は *Streptococcus pneumoniae* が分離されており、起炎菌と考えられた。

症例 No. 5 は、治療前に、*Klebsiella pneumoniae* (卅) が分離され、感受性は CEX (卅), ABPC (卅) であり、また、*Haemophilus influenzae* (卅) も分離され、感受性は、CEX (卅), ABPC (卅) であった。治療後、*Klebsiella pneum.* は消失したが、*H. influenzae* は(卅)に分離さ

れ CEX (+), ABPC (+) と感受性も変化していた。この症例は、*Klebsiella pneum.* と *H. influenzae* の混合感染と考えられた。7日目では無効と判定されたが、自覚症状の改善、検査所見の改善、*Klebsiella pneum.* の消失を考えてやや有効と最終判定されたが、その後 Minocycline が使われ、菌も消失し、治癒している。

症例 No. 6 は、*H. influenzae* (卅) が分離され感受性は、CEX (卅), ABPC (卅), TC (卅), GM (卅), CBPC (卅) であったが、自覚症状不変、検査所見不変で7日目では無効と判定したが、主治医の最終判定では、やや有効とされていた。この症例は、35日間投薬をうけており、治療上でも、また主治医判定でも問題があると思われた。

自覚症状の変化や効果判定は、Table 3 に示した。

(8) 咳嗽、喀痰、発熱など調査票に記載された自覚症状だけに従って、その改善傾向をみると、著明改善3例、改善4例、不変1例であった。

(9) 臨床効果判定は、7日目判定で、著効1例、有効5例、無効2例であり、主治医の最終判定では、著効2例、有効4例、やや有効2例であった。

7日目判定無効の2例(症例 No. 5, 6)は、ともに最終判定 やや有効であった。7日目判定有効の5例(症例 1, 2, 3, 4, 7)のうち、4例が有効の最終判定で、症例 No. 2 は、最終判定で、著効と判定されていた。7日目判定著効の1例(症例 No. 8)は、10日目の最終判定でも著効とされた。

また、自覚症状の改善傾向と、7日目効果判定を比較すると、著明改善3例は、著効1例、有効2例、改善4例では、有効3例、無効1例、不変1例は、無効例であった。

さらに Table 4 に示したように、疾患別に7日目判

Table 3 Course of cases

No.	Change of subjective symptom	WBC		ESR		CRP		Evaluation		Side effect
		before	after	before	after	before	after	7th Day	Final judging by doctor	
1	Improvement	7900	7300	30	20		—	Good	Good	—
2	Marked improvement	8400	5600	22	12	—	—	Good	Excellent	—
3	Improvement	7500	6000	16	10	+	—	Good	Good	—
4	Improvement	11000	9500					Good	Good	—
5	Improvement	16600	14100	34	22	±	±	Poor	Fair	—
6	Unchanged	5600	4100	38	45			Poor	Fair	—
7	Marked improvement	6600	5000	28	14	±	+	Good	Good	—
8	Marked improvement	6700	6600	66	15	6+	±	Excellent	Excellent	—

Table 4 Judgement by disease

Diagnosis	Evaluation							
	7th Day				Final judging by doctor			
	Excellent	Good	Fair	Poor	Excellent	Good	Fair	Poor
Acute bronchitis		3			1	2		
Bronchiectasis		1		1		1	1	
Chronic bronchitis		1		1		1	1	
Bronchial pneumonia	1				1			

定、主治医による最終判定を比較した。急性気管支炎3例では、7日目判定で3例とも有効、最終判定で著効1例、有効2例であった。気管支拡張症の感染2例では、7日目判定で有効1例、無効1例、最終判定では、有効1例、やや有効1例であった。慢性気管支炎の急性増悪2例では、7日目判定で有効1例、無効1例、最終判定で有効1例、やや有効1例であった。気管支肺炎の1例は、7日目判定も、最終判定も著効であった。

III. 副作用

Table 3 に示したが、自覚症状としての副作用の発現は全例にみられなかった。

また、投与による臨床検査への異常な影響は、特に認めなかった。

IV. 考察

今回のこの試験を行った時期が、53年8月下旬より開始されており、季節的にも呼吸器感染症の余り多くない時期でもあり、さらに、諸般の事情により集計を急いだ事もあり、症例数の不足や対象疾患も満足のいくものばかりではなかった。

対象症例8例のうち、2例(症例 No. 1, No. 8)を除いては、肺気腫、気管支喘息、慢性気管支炎、気管支拡張症などの慢性呼吸器疾患における感染症であり、当科の外来ではこの傾向は強くなっており、基礎疾患のない新しい呼吸器感染症はあまりみられない。

慢性呼吸器疾患での検出菌は、グラム陰性桿菌の比率が高まっており、*Haemophilus influenzae* や *Klebsiella pneumoniae*, *Pseudomonas aeruginosa* などしばしば検出されている。

今回の検出菌のうち、病原菌と推定される *Streptococcus pneumoniae* や *Klebsiella pneumoniae* には、Cefadroxil の感受性も強く、臨床効果も良好であった。

しかし、Cephalosporin 系薬剤は、*Haemophilus influenzae* には、ABPC より抗菌力が弱く、なかには感受性を示さない場合もあり、今回の試験で *Haemophilus influenzae* を検出した3例(症例 No. 2, No. 5, No. 6)でも、やはり菌の消失は認められず、他剤へ変更した例もある。症例 No. 2, No. 5 は、CEX に感受性(++)ということで、14日まで投与してみた例で自覚症状は軽快したが、*Haemophilus influenzae* の消失はみられなかった。

慢性呼吸器疾患を基礎にもつ呼吸器感染症では、原因菌の推定、検出も困難な場合もあり、重症な症例では特に抗生物質の選択で問題となる。

今回の試験では、症例数が少ない事や、全例が中等症以下で外来症例である事など、この薬剤の効果を判定するのは多少無理と思われるが、Cephalosporin 系薬剤として、広範囲のスペクトルを有し、抗菌力も強く、今回の8例についても著効例を始めとして何らかの効果がみられ、Cephalexin と同程度の効果が、期待できるのではと考えられる。

V. 結 語

呼吸器感染症8例に Cefadroxil (BL-S 578) を投与し、著効2例、有効4例、やや有効2例の良好な成績を得た。

また、副作用は全例に認めなかった。

起炎菌と思われる *Streptococcus pneumoniae*, *Klebsiella pneumoniae* には、本剤は有用であったが、*Haemophilus influenzae* では、有用性は認められなかった。

文 献

- 1) Buck, R. E. & K. E. Price: Cefadroxil, a new broad-spectrum cephalosporin. Antimicrob. Agents & Chemoth. 11: 324~330, 1977

CLINICAL EXPERIENCE OF CEFADROXIL IN THE TREATMENT OF RESPIRATORY TRACT INFECTION

KAZUHIKO ITO, MASANORI MORISE, SAIJI YOSHII
and OSAMU KOHNO

First Department of Internal Medicine, School of Medicine, Nagoya University

Cefadroxil was administered clinically in 8 cases of respiratory tract infections, and the results were obtained as follows.

1. As for the clinical effects, good results were obtained with cefadroxil as excellent in 2 cases, good in 4 cases, and fair in 2 cases out of total 8 cases consisting of 3 cases of acute bronchitis, 2 cases of the infection in bronchiectasis, 2 cases of the acute exacerbation in chronic bronchitis, and 1 case of bronchial pneumonia.

2. As for the bacteriological effects, cefadroxil was useful against *Str. pneumoniae* and *K. pneumoniae* which would have been considered as pathogen, while no usefulness was recognized against *H. influenzae*.

3. No side effect of cefadroxil was observed in all cases, nor abnormal influence was noticed in clinical tests.